

# 中央電気倶楽部月報

◎定時総会開催案内

「第百九回定時総会開催案内」

◎午さん会講演録

『最近の電力需給とその背景について』

／関西電力株式会社 エネルギー・環境企画室 担当部長  
エネルギー・環境政策グループ チーフマネジャー

辻森 耕太 氏

2023

2

Vol.848

中央電気倶楽部月報

令和五年二月一日発行 一般社団法人中央電気倶楽部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-1-25 電話06-6345-6355(代) FAX06-6345-6877

## 倶楽部からのご案内

「電気記念日祝賀会」のご案内

日時 令和五年三月二十四日(金)

十五時～十六時四十分

会場 中央電気倶楽部 五階大ホール

一、祝典

十五時～十五時三十分

式辞

電気記念日行事関西実行委員会  
委員長

来賓祝辞

近畿経済産業局長殿

関西電力株式会社社長殿

アーク灯・白熱灯

(竹フィラメント電球) 点灯式

表彰

傘寿功労者に感謝状贈呈

一、記念講演

十五時四十分～十六時四十分

演題 「グローバルモビリティの

トレンドと将来像(仮)」

講師

EYストラテジー・アンド・

コンサルティング株式会社

早瀬 慶 氏

※対象者には招待状または案内状をお送りし  
ます。

※電気記念日祝賀会のため、三月二十四日(金)

終日、囲碁・将棋室・撞球室・インドアー練習場

はご利用できませんのでご了承下さい。

お悩みの  
**リモート会議の相互音声システム構築**  
無料です

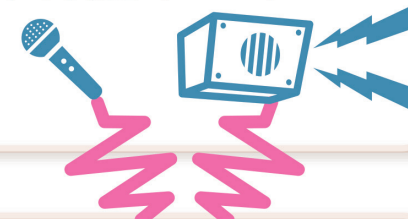
**中央電気倶楽部におまかせください!!**

当倶楽部の既設音響貸室(Hall.511.513.317.215)をご利用でマイク&インターネットのご用命があれば、貸室マイクとスピーカーを利用した相互リモート通話システムを無料でお使いいただけます。リモート用のパソコンをご持参いただければ、システムの設定や準備は当倶楽部の技術員がサポートしますので、当日はお鞆ひとつでご来館いただくことも可能です。

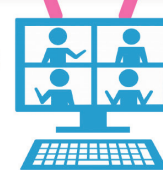
「リモート会議の運営を任せられたけど、高価な機材の購入や複雑なシステムの導入はちょっと!!」「重い機材の運搬や下準備、当日の設営を考えると気持ちが重くなる。」そんな方には当倶楽部の【リモート会議音声サポート】を是非ご利用ください。

※音声のみのシステムですのでプロジェクター&スクリーン、カメラの併用をお勧めいたします

クラブ貸室 (HOST)



外部 (GUEST)



一般社団法人中央電気倶楽部  
<https://www.chuodenki-club.or.jp>

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2丁目-1-25  
TEL 06-6345-6357 FAX 06-6345-6877



「近代化産業遺産」プレート

目次

2月のスケジュール — 2  
3月の予定  
第109回定時総会 — 4  
写真 — 5  
年賀交歓午さん会 — 6  
講演録 — 7~15  
倶楽部だより — 16~17  
同好会だより — 18~19  
倶楽部からのご案内 — 20

創立：大正3年11月  
建物(本館)：昭和5年竣工  
会員数：1,438名

法人指定会員 1,199名  
個人会員 239名  
(R.5.1未現在)

二月のスケジュール

一	水	電寿会例会 絵画部(水彩画)(B一〇号室) 社交ダンス教室(B一〇号室)
二	木	
三	金	午さん会(電社会・青年会合同) 講演『一人ひとりの教育的ニーズ 〜子も孫も、そしてあなた自身も〜』 (株) イングラムジャパン 代表取締役 (財) 日本教育支援機構 主席研究員 笹田 能美 氏
四	土	囲碁部委員会(十一時・三〇二号室) 囲碁部例会(十三時~十七時) 撞球部例会
五	日	青年会例会
六	月	安全祈願祭(屋上稲荷神社前十一時 テナント・工事関係業者合同) 社交ダンス教室(B一〇号室)
七	火	
八	水	
九	木	
十	金	午さん会 講演『手数料が世界経済を決定する コミッション・キャピタリズムの 形成から現代まで』 京都産業大学 経済学部 教授 玉木 俊明 氏
十一	土	建国記念の日
十二	日	
十三	月	
十四	火	
十五	水	社交ダンス教室(B一〇号室)
十六	木	
十七	金	午さん会 講演『緊迫する台湾情勢と米中対立の行方』 東京外国語大学 教授 小笠原 欣幸 氏
十八	土	初・中級者向け囲碁教室(十時~十二時・二〇五号室) 囲碁部指導日 いなづま句会(三二七号室) 麻雀部 大会
十九	日	
二十	月	
二十一	火	ゴルフ部例会(宝塚GC)
二十二	水	理事会 第一〇九回定時総会(十三時 五階大ホール) 社交ダンス教室例会(B一〇号室)
二十三	木	天皇誕生日 写真部撮影会(須磨離宮公園)
二十四	金	午さん会 講演『岸田政権と統一地方選挙の行方 〜ポストコロナの政治を考える〜』 NHK放送文化研究所 主幹 島田 敏男 氏
二十五	土	将棋部例会(指導なし)
二十六	日	
二十七	月	
二十八	火	

※予定変更の場合は改めて連絡いたします。

二月の午さん会講演

- ◎二月二日(金)  
講演『一人ひとりの教育的ニーズ  
〜子も孫も、そしてあなた自身も〜』  
(株) イングラムジャパン 代表取締役  
(財) 日本教育支援機構 主席研究員  
笹田 能美 氏
- ◎二月十日(金)  
講演『手数料が世界経済を決定する  
コミッション・キャピタリズムの  
形成から現代まで』  
京都産業大学 経済学部  
教授 玉木 俊明 氏
- ◎二月十七日(金)  
講演『緊迫する台湾情勢と米中対立の行方』  
東京外国語大学  
教授 小笠原 欣幸 氏
- ◎二月二十四日(金)  
講演『岸田政権と統一地方選挙の行方  
〜ポストコロナの政治を考える〜』  
NHK放送文化研究所  
主幹 島田 敏男 氏

三月の午さん会講演(予定)

- ◎三月二日(金)  
講演『徳川家康  
〜われ一人腹を切て、万人を助くべし〜』  
国際日本文化研究センター  
名誉教授 笠谷 和比古 氏
- ◎三月十日(金)  
講演『大相撲大阪場所の見所 話題の力士』  
産経新聞社 東京本部 運動部  
宝田 将志 氏
- ◎三月十七日(金)  
講演『少子化・子育て・日本の未来  
〜孫持ち世代の意識の持ち方〜』  
学生のための恋愛・結婚勉強会  
社員教育プログラム  
終活サポートプログラム  
一菜 ちかこ 氏
- ◎三月二十四日(金) 休会
- ◎三月三十一日(金)  
講演『甲子園の審判は見た 奇跡の試合』  
(有)オフイスキジマ 代表取締役  
元高校野球審判、関西大学野球部主将  
木嶋 一黄 氏

令和五年電気記念日祝賀会

◎三月二十四日(金)五階大ホール  
(詳細は二十ページにて案内)

**午さん講演会にご出席のおすすめ**

毎週金曜日の午さん講演会は、下記の要領で開催いたしておりますので、多数ご出席ください。

出席資格：倶楽部会員およびご同伴の方、会員会社の社員の方

時間：12時~13時40分頃  
(講演12時40分~13時40分)

場所：3階大食堂

食事代：一人会員2,200円(税込)  
非会員2,500円(税込)

予約：不要  
着席：自由着席

※二月より食事代が変更となります。



「立春大吉」 個人会員 猪谷 勇三 君 撮影

撮影者のひと言

梅は春を告げる一番バッターですね！

出入りの植木屋さんからお正月前に毎年いた

だく盆梅です。

部屋中に甘い香りが充満しています。

(写真部員 猪谷 勇三)

## 第一〇九回 定時総会開催 ご案内

一、日 時 二月二十二日(水) 十三時

一、会 場 五階 大ホール

### 一、会議の目的事項

- 第一号議案 令和四年度事業報告の件
- 第二号議案 令和四年度収支決算承認の件
- 第三号議案 令和五年度事業計画ならびに収支予算の報告の件
- 第四号議案 令和五年度役員選任の件

(お願い)  
 新型コロナウイルス感染が収束していないことから、会員の皆様におかれましては、「ご自身の体調を十分に確認の上、委任状による議決権行使していただくことを強くご推奨申し上げます。また、当日ご出席されます場合はマスク着用など感染予防を最大限ご配慮いただくと共に、同封の「第一〇九回定時総会 議案」を必ずご持参の上、「ご来場いただきますようお願いいたします。なお、会場も入場時の検温や会員様のお席の間隔を広く取る等対策をさせていただきます、席数を例年より少なくさせていただきますので予めご了承くださいませようお願いいたします。」

●法人指定会員の方は法人代表会員宛に、個人会員の方は本人宛に別途開催案内を送付させていただきます。

## CLUB GRAF くらぶ・ぐらふ

### ◎午さん会(9月9日)

『サガレン(樺太)を旅して  
 ~日本との歴史を顧みる』

ノンフィクション作家 かけほし 梯 久美子 氏



### ◎午さん会(9月16日)

『町家数寄屋大工さんの技など  
 伝統技術の伝承等』

(株)猪谷工務店  
 代表取締役 猪谷 勇三 氏



### ◎午さん会(9月30日)

『ウクライナから見る日本の  
 農業政策の課題  
 ~台湾有事への備え~』

キャノングローバル戦略研究所  
 研究主幹 山下 一仁 氏



## 「箏で寿ぐ新春の調べ」

### ～年賀交歓午さん会を開催～

一月十七日（火）、当俱樂部三階大食堂において令和五年の年賀交歓午さん会が開催され、五十名の会員が出席して新年の門出を祝いました。

冒頭、津賀理事長が新年のお祝いの挨拶を述べられ、穏やかな新年を迎えることが出来たことの慶びや、平素からの会員各位のひとかたならぬご支援、ご協力に対する謝意が伝えられました。

また、津賀理事長は最近の倶楽部の状況に触れ、「昨年は新たな食堂事業者様を迎え、長らく閉めていた喫茶室を再開したほか、ホールのプロジェクトを新調し、コロナは未だ収束しない中でもイベントや会食、貸会議室のご利用も徐々に増加して参りました。」と述べ、今年は干支である「うさぎ」が跳びはねるが如く、いち早く、コロナ前の状況に戻りたいと願いを語られました。

そして、「本年、当倶楽部は創立一一〇周年という節目を迎え、記念式典も予定しております。電化で社会を変えろという夢を抱いた先人の方々から引継がれてきた中央電気倶楽部が、今後も愛される存在として発展し続けられるよう、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。」と挨拶を締めくくられました。

続いて、令和四年春の褒章において、佐野吉彦様が黄綬褒章を受章された旨、紹介がありました。

その後、元理事長の生駒昌夫様のご発声により祝宴に入り、楽しく歓談しました。

その後、「箏で寿ぐ新春の調べ」と題し、大阪音楽大学特任准教授の片岡リサ様による演奏が披露され、祝宴会場には素晴らしい箏の調べと美声が響き、新年に相応しい華やかなムードに包まれました。

締めくくりに、平素から午さん会に熱心に参加され、令和四年度も皆勤賞を獲得された土田博様の音頭で声高らかに万歳三唱し、年賀交歓午さん会はめでたくお開きとなりました。

祝辞を述べる  
津賀理事長



「箏で寿ぐ新春の調べ」  
大阪音楽大学 特任准教授  
片岡リサ氏



### ○年賀交歓午さん会

乾杯の発声  
生駒昌夫氏  
(元理事長・(株)きんでん取締役会長)



万歳三唱  
土田博氏



### 午さん会講演録



関西電力株式会社  
エネルギー・環境企画室 担当部長  
エネルギー・環境政策グループ  
チーフマネジャー

辻森 耕太 氏

## 『最近の電力需給とその背景について』

～はじめに～

本日は足元で生じている電力の課題について、幅広くご説明をしたいと思います。

最初に電力の需給状況のお話をし、その後、電気料金の値上がり要因について、三つめには昨今注目を浴びているカーボンニュートラルについてのご説明をしていきます。

～電力需給の現状と対応の方向性～

### 「電力需給の現状」

一年ほど前の三月、電力の需給ひっ迫がニュースになりました。今夏も節電要請がニュースで連日取り上げられたことを、皆さまもご記憶ではないでしょうか。この冬はどうかというと、需給としては穏やかではない状況になっており、十二月からは五・六％の水準になっています。

### 辻森 耕太 氏 プロフィール

略歴 1998年 関西電力(株) 入社  
2009年 出向 (日本原燃(株))  
14年 総合企画本部 経営効率グループ マネジャー  
16年 出向 (電気事業連合会)  
19年 エネルギー・環境企画室 計画グループ マネジャー  
21年 現職

東日本の東京電力、東北電力のエリアではさらに低い四・一％とされています。こうした状況を踏まえ、政府から無理のない範囲での節電要請が出ています。今ほど「予備率」という言葉を使いましたが、この言葉について補足いたします。電力の単位には「kW（キロワット）」や「kWh（キロワットアワー）」が良く使われますが、kWというのは、電気の出力の瞬間的な高さ・大きさを示した単位だと

思ってください。そして瞬間的に必要となる電気の需要（kW）に対して、供給側である発電設備としてどれほどの余力のkWがあるか、をみたものが「予備率」です。

予備率は、お客さまの使用状況であつたり、発電所のトラブルなどにより、需要側・供給側両方での動きで変動が生じますから、安定供給には3%の予備率が最低必要だといわれています。さらには大きな気温変動もあるために、一般的には七〇八%の予備率が必要だともいわれています。しかしその七〇八%の十分な予備率が確保できていないのが昨今の状況です。

では、来年になれば回復していくのかというと、残念ながら来夏も引き続き東京エリアは三〇三%の見通しであり、来冬も東京・中部エリアでは5%を切るとされています。つまり昨今の厳しい電力事情の流れは、今年だけのトピックではなく、継続していくという見立てなのです。

需給がひっ迫している状況で震災などの大きな自然災害が起き、発電所にトラブルが発生すれば、皆さんもご記憶かと思いますが、二〇一八

WRタイプは東京電力、東北電力含めて再稼働をしません。このことが供給力不足の一つの要因になっています。

二つめは、火力発電所の退出です。東日本震災による原子力発電所の停止によって、主役が原子力から火力に戻りました。そのような時期に、震災前にあつた総括原価や地域独占のあり方についての議論が高まり、同時並行の形で電力の自由化が進められるようになります。さらには再生可能エネルギーをどんどん取り入れるべし、という流れからFIT法（固定価格買取制度）ができ、再生可能エネルギーが拡大しています。さらに、脱炭素の流れも加わり、石炭はけしからんという論調が増えってきました。

これらの要因が複合的に重なった結果、太陽が出ているときには太陽光発電が活躍し、太陽が沈んだときだけ火力発電が活躍するというシーンが多くなるなど、稼働時間が減つた火力発電所は儲からない発電所になってきました。そのため火力発電所の休廃止が増加したわけです。二〇一六年からの五年間だけをみても休止の火力発電所は増加し、毎年

年に北海道でおきたブラックアウトのような事態に陥いるリスクも高まります。北海道でのブラックアウトは日本での戦後初の事態だったのでですが、主因は地震ですが、予備率が少ない状況下ではこのような事態も発生しやすくなると考えられます。

#### 「電力の供給力低下とその背景」

では、なぜ電力の予備率が少なくなっているのかということについて、最初に電源構成の変化から説明をしていくことにします。

電気というものはつくるだけつくって、あとはためておけばよいというものではありません。蓄電の技術も進んではいますが、基本的には、工場や家庭で使う電気の使用量に合わせて発電所を機動的に動かし、供給側と需要側の電気の量が常に同じになるよう保つ必要があります。供給側の発電機も、機敏に出力を可変できる発電機ばかりではなく、ベースとして安定的に電気をつくり続けるタイプの電源があるなど、さまざまなタイプの発電を組み合わせた電源構成としてお客さまの需要に対応しています。

二〇〇万〜四〇〇万kWの火力発電所が廃止となっています。総括原価も撤廃され、自由化の中で生き残ることを求められる電力会社にしてみれば、ボランティアでは抱えきれない状況となってきたと言えると思います。

資源エネルギー庁による見通しでも、今後も火力発電の供給力については、新しい電源をつくるよりも廃止の方が多い傾向が示されています。今後十年間で二六〇〇万kWの火力が供給力として減少していくという評価まであります。

火力発電所が退出していく中でも、火力や水力発電所の補修は電力の高需要期である夏場や冬場は避けて春や秋に行う、といった細やかなことも取り組んではいますが、日本全体でプラントは高経年化している、補修必要量はだんだんと多くなっています。要は老朽している発電所にムチ打ちながら稼働させているので、修繕が必要な箇所も増えています。したがって、たとえば春なのに寒くなってしまうたり、秋に入っても暑さが残り続けてしまったりしたときには、低負荷期であつても想定以上に電力需要が増え、供給

一九七〇年代の二度のオイルショックの反省から、石油にばかり依存するのではなく、原子力の開発を進めるなど、時間をかけてバランスのよいエネルギーミックス構築に努めてきたというのが日本の姿でした。ところが二〇一一年の東日本大震災以降、原子力発電が停止し、再び石炭、LNGといった火力発電に依存している状況に逆戻りしています。最近では太陽光発電を中心とした再生可能エネルギー導入の流れもあり、再エネが増えるといった電源構成にも変化はみられるものの、依然七割を火力に依存している状況に変わりはありません。

#### 「電力需給ひっ迫の原因」

需給ひっ迫、供給力が不足している原因としては、大まかに三つほどあります。

まず、原子力発電所の再稼働が思いのほか進んでいないことがあります。元々、国内には五十四基の原子力発電がありましたが、新規制基準の対応に時間を要し、現在再稼働しているのは十基のみです。PWRといわれる西日本側に多いタイプのものだけが再稼働し、東日本に多いB

力が不足する可能性が出てくるわけです。

需給ひっ迫の三つめの要因は燃料不足の懸念です。これは「kW（キロワット）」という発電能力の高さの問題ではなく、電気を皆さんに「送り続ける」という「kWh（キロワットアワー）」の問題です。資源が少ないわが国は、火力発電の燃料は輸入に頼らざるをえません。そしてそこには当然、その燃料輸入が途絶するかもしれないというリスクがあります。

特に昨今では、ロシアがウクライナ侵攻によって経済制裁を受けています。日本が権益を持つLNGの大きなマーケットや、サハリン2もしかり、プーチン大統領の発令により、燃料輸入が途絶する可能性はなきにしもあらずです。

わが国のロシア依存度はどうかとというと、現在、発電所では原油をほとんど使っていませんので、その意味ではロシアの原油の影響は少ない状況にあります。しかし、LNG、石炭は、ともに一〇%近くをロシアに頼っている。一〇%前後だと少ないように思えますが、安定的な供給をする上では決してあなどることの

できない規模です。

少し振り返ると、二〇二一年の初頭に、実は需給ひっ迫が発生していました。これはまさに、燃料不足がタイトな状況に追い込まれて、kWhが不足しかねない事態になっていったのです。理由としては、強い寒波が襲い需要が伸びる中で、最大の輸入元であるオーストラリアでトラブルがあり、LNGが一時的にこなくなってしまうことで十分な燃料がタイムリーに確保できなくなりそうになりました。

#### 「電力需給ひっ迫への対応」

電力の需給ひっ迫に対しては、当然、対策が必要となります。短期的には、国として追加的な燃料確保、さらには「kWh公募」といいますが、送配電会社が電力量を確保するという現実的な取り組みが行なわれていきます。加えて構造的な対策として、脱炭素電源をどんどんつくり、供給量を増やしていく取り組みもなされつつあります。今冬は燃料対策として、国の指導の下、kWh公募によって各発電事業者が必要な燃料をしっかりと確保していくことができる社会保険的な手が打たれてい

合には燃料費、発電所の減価償却費、他から仕入れる場合には調達料（購入電力料）といったものです。関西電力の場合は原子力・火力・水力の費用、最近では再エネの費用も含まれますし、(株)神戸製鋼所や電源開発(株)からも電気を仕入れていきますので、その購入料も織り込まれています。

送配電にかかるものとしては託送料金と言われるもので、鉄塔、送電・配電線等、電気の供給ネットワークを支える費用となっています。

これらの費用構成自体は、自由化の前後で大きく変わっていませんが、自由化前は発電コストや送電コストなどのすべてを関西エリアなら関西電力がすべて責任を持っていたので、必要となるコストに事業報酬などを加味して電気料金として請求をしていたものが、電力の自由化が進んでいく中で、今はかかったコストをそのまま電気料金として請求するのではなく、新規参入したライバルと、互いに競争をしながら電気料金が決まっています。

お客さまから見た電気料金の構成としては、基本料金、使った電力量に応じた従量料金、さらには再生可

ます。根本的とまではいえませんが、需給をしっかりと確保していく対策がとられている状況です。

短期的にも綱渡りをしている状態なのに、中長期的に日本の供給は大丈夫なのかという不安もあります。短期的対策はもちろんです。今後は中長期的にいかに関与を確保していくのかという点が重要になると考えていますが、そのためには、電気の安定供給を確保するための規制とインセンティブの両方が必要となります。その意味で注目されているのは、脱炭素電源の投資環境を整える投資促進策です。

今なぜ電源をつくることができないのかというと、これは、発電所を建設しても、それがどれだけの稼働をしてくれるのか、しっかりと投資した額が回収できるのか、といった予見性が見えない状態にあるからといえます。電力も自由化されていて、どれだけ売れるかもわからなければ、お客さんも取られてしまうかもしれない。その中で、コスト回収に二十年、三十年、四十年とかかり、それも何千億円もかかるプラントの建設に踏み切れるのかは、難しい経営判断となります。これは日本全体

エネルギー発電促進賦課金から成り立っています。従量料金のなかには「燃料費調整制度」による燃料費調整額が含まれており、これが今の電気料金変動の大きなポーションを占めています。燃料費調整制度とは、飛行機のサーチャージと似ていて、事業者の効率化努力が及ばない燃料価格や為替レートの影響を外部化し、できるだけ迅速に電気料金に反映することにより、事業者の経営効率化の成果の明確化や、経営そのものの安定化を図っていくことを目的に、一九九六年から導入された制度です。毎月の見直しがなされていて、輸入燃料の三ヶ月から五ヶ月後の平均価格が料金に反映される仕組みになっています。

電力各社の燃料費調整額は、各社の燃料構成の割合であったり、基準になる料金の改定時期によって差はありますが、輸入している燃料価格の上昇が反映され、上昇していることが分かります。ただし、規制料金のお客さまについては消費者保護の観点から上限が設けられていて、それを上まわる燃料費調整は行われません。一方、自由料金にはそういう条件がない場合も多く、その場合、

の問題です。

古い火力発電所が次々に退出しているなかで、どうすれば新規電源をつくることができるのかということ、今、国のレベルで検討しています。そのひとつが「長期脱炭素電源オークション」という、脱炭素として活躍できる新しい電源については、固定費を二十年ほど得られるようにする制度です。これにより安心して発電所を建設できるのでないか、ということ、制度について審議会等で議論されています。

#### 「電気料金値上がりの要因と背景」

##### 「電気料金の仕組み」

次に電気料金の話に移りたいと思います。発電から小売りまで、関西であれば「関西電力」一社がすべてを地域独占で受け持っていた昔とは違い、今の電気事業は大きく分業が進み、「発電事業者」、「送配電事業者」、「小売事業者」の三つのライセンスに分かれています。

電気料金は、発電費用と送配電費用といった必要となるコストに、競争環境を踏まえて設定されています。発電費用は、自ら電源を使う場合燃料費が上がれば、それに応じて上がっていきます。

次に「再生可能エネルギー発電促進賦課金」ですが、これは「FIT」と「FIP」の二つの制度が関わってきます。いずれも再エネ導入を促進するためのものですが、FITは固定価格で買い取り、FIPは再生可能事業者が市場で売電したとき、その価格に応じて一定の補助金を上乘せる制度です。FITとは、例えば、太陽光パネルを設置して発電した電気を二十年間にわたり一定価格で買い取る仕組みです。その買取価格はどんどん下がっていますが、そもそも二十年間のコストは、国民みんなで負担しようという仕組みが再生可能エネルギー発電促進賦課金です。したがって、太陽光発電がどんどん増えれば、皆さんの負担する再生可能エネルギー発電促進賦課金も増えていくことになり、実際に年々増えています。

##### 「電気料金が急激に

##### 高騰している理由」

以上の電気料金の仕組みと内訳を踏まえた上で、足元の電気料金がなぜ急激に上がっているのでしょうか

か。  
先ほどもご説明した通り、現在、日本は電力の七割を火力に依存しています。石炭、LNGが燃料の大半を占めていますから、その価格上昇が燃料費調整制度を通じて料金に反映されています。

石油については、ロシアのウクライナ侵攻を受けて、世界的に一バレル百三十ドルを突破しています。これは過去にない高い水準です。先ほど触れたように、発電にはあまり石油を使っていません。だから影響は軽微なのではないか、と思ってしまうのですが、石油価格はLNGを含めた様々な燃料価格の指標となっている場合が多く、石油価格が上がれば、他の燃料価格も一緒に上がる傾向にあります。

石炭もこの十年で最高値になっています。環境には悪いが安いというのが石炭のイメージですが、足元で四、五倍にも高騰していますから、もはや安いとも言えず、石炭を多く活用している会社は大きな負担が生じています。

日本が主力エネルギーとして利用しているLNGもしかりで、世界中で軒並み高騰しています。日本は口額が上限に達しました。規制料金ですが、もう燃料費調整額は上げられない中で、燃料費はどんどん上がっている。その差額は電力会社が負担せざるをえない苦しい状態となっています。

燃料価格の高騰とそれに伴う国民生活への打撃等を踏まえ、岸田内閣は物価高の克服も含めた総合経済対策として、急激な電気料金高騰に対し、家庭、企業ともに1kW当たり七円から三、五円程度を国が補助金で賄うと発表し、年明けから施行されます。すでにガソリンで適用されているものと似たようなもので、新電力を含めた電力会社に電気代の値引きを求め、その分は政府が補助するという内容のものです。

#### 「電気料金をめぐる課題」

さて、大手電力（旧一般電気事業者）の規制料金は各社頭打ちになってしまいましたが、その状況に耐えかねて、東北電力、中国電力、四国電力、沖縄電力、北陸電力の五社は規制料金の値上げを公表しました。それも北陸電力では四五、八%といったように、ここ数年では考えられないような率の値上げです。東北

シアから一〇%程度しか依存していませんが、ヨーロッパは相当部分をロシアに依存しています。したがって、彼らはそれを埋めようとして、カタールをはじめ、全世界からLNGを買って漁っています。この煽りを受けて、アジアのマーケットでも価格が上昇しているわけです。

結果、日本の火力の燃料費は相当に上がり、輸入にたいへんなコストと労力を要している状況となっています。

また、電力自由化に伴って、今は「卸電力市場」という電気の売買マーケットが整備されており、そこから電力を仕入れることにより、新規参入事業者は発電所を持たずとも商売ができていくわけですが、その卸電力市場価格が世界の火力燃料費高騰に伴い、大きく上がっています。

卸電力市場価格は、この五年ほど、十円を切る値段でした。安い理由は様々ありますが、その一つに、新電力の参入促進のため、大手電力会社で余った電気は可変費だけで市場に供出するというルールがあり、政策的に電気が安く市場に出されていたという背景もあります。これが昨年から少し上がり、十三円五十銭

電力の場合、料金原価のうちの燃料費の部分が一、五倍以上になっています。輸入する石炭価格が三倍、四倍になってきたからです。そこで三三%近い値上げを申請することになった。そのままの水準で認可されるかはわかりませんが、国民生活に大きな影響を与えてしまう値上げになることは間違いないと思います。

なお、電力各社の二〇二二年度の業績予想を見ると、燃料価格があまりに急激に上がりにすぎたためにコスト回収ができず、各社の経常損益は多額の赤字見通しとなっています。

燃料高騰に対し、規制料金は燃料費調整に頭打ちがあり、一方で自由料金は高騰し続ける結果、自由料金より規制料金のほうが安くなる、といったおかしなことも生じており、国の審議会でも、今後の電気料金のあり方について、あらためての議論が必要と示唆されています。

国民生活にとっては、再生可能エネルギー発電促進賦課金も大きな負担です。これも太陽光発電を中心にFITの電源が増えてくることによつて、買取費用としては全体で四、二兆円、家庭でも年間一万円ほど負担している状況になっています。こ

くらいになりました。発電所を持たない事業者の仕入値が十円から十三円五十銭になり、そこに託送料金などを勘案して、十五円や二十円で売るといった形態をイメージいただければと思います。しかし、世界的な化石燃料価格の上昇を受けて高騰を始め、高い時は五十円も超えており、二〇二二年の上期は平均でも二十円を超える水準です。寒さが強くなってきた足元では二十五円、三十円に近い価格で推移しています。

卸電力市場から安く電気を買い、例えば、お客さまに二十円で販売していたのが、市場価格そのものが三十円、四十円になれば逆ザヤになり、商売は成立しなくなる。このような事例が今、多々発生しています。卸電力市場で電気を仕入れて商売をする事業者にとっては、これはたいへん厳しい状況で、実際、七社の新規参入事業者がおられたわけですが、昨年一月以降、結構な数の新電力が倒産に陥ったり、民事再生を申請しています。

また、大手電力事業者にしても、燃料の輸入価格の上昇に伴って燃料費調整額も大きく上昇し、二〇二二年十月にはすべての大手電力で調整

#### 「カーボンニュートラル」と

電力エネルギー

#### 「カーボンニュートラル」に

向けた動き

最後にカーボンニュートラルについてお話をしたいと思います。二〇二〇年、当時の菅首相が所信表明演説のなかで、日本としても二〇五〇年のカーボンニュートラルを目指すと正式表明し、ここからカーボンニュートラルの動きが大きく加速しました。二〇五〇年のカーボンニュートラルを果たすため、二〇三〇年に、二〇一三年比で四六%のCO<sub>2</sub>削減という目標も掲げました。これはエネルギー基本計画でも目標とされています。

しかし先ほど申しましたとおり、電力の七割を火力に頼っている現在の状況が続くとすれば、二〇三〇年の目標も達成はできません。国際的な批判を受ける可能性が出てきます。

二〇五〇年のカーボンニュートラルとはどのような世界になるので

でしょうか。基本的には、炭素を出すものは使わない、ということですが、実際には、少しの炭素は出さざるをえません。ゼロにできない部分として想定されるのは電力の分野ではなく、非電力の分野です。例えば、輸送であったり、そういった分野では炭素を出さざるをえないだろうという試算があります。ただし、その分は植林で回収したりしながらカーボンニュートラルを達成することが考えられます。電気、産業などの民生分野については電化や水素、アンモニアなどを活用して、CO<sub>2</sub>を一気に減らしていく。そういう形がひとつの方向性として示されています。

そのなかで今、産業界では「GXリーグ」という取り組みがスタートしつつあります。GXというのは「グリーン・トランスフォーメーション」の略で、脱炭素化やカーボンニュートラルを含む経済社会システム全体の変革の取り組みを進めるというものです。GXリーグとは、脱炭素を進めていく企業が自主的に削減を宣言し、排出枠の取り引きをするような仕組みをやっていく場です。

さらには、岸田首相の音頭の下、「GX実行会議」というものも設けられ、再エネも大量導入できませんから、コストとのバランスを考えながら、送電線網をどのように導入構築していけばよいのかということも、具体的に議論されています。

原子力については、まずは再稼働です。特にBWRプラントを中心としている東日本エリアでの再稼働問題です。加えて、次世代炉の開発と、その開発環境の問題についての議論も進められています。また、具体的に脱炭素電源への新規投資を促す「脱炭素電源オークション」の議論もなされています。二〇五〇年のカーボンニュートラルに向けて、なかでもエネルギーに関しては、様々な議論が急速に進められているのが今の状況です。

GXを進めていくには百五十兆円の投資が必要だといわれていますが、政府は「GX経済移行債」というものを発行し、GXをけん引していくようとしています。発行額は二十兆円だといわれていますが、政府はカーボンプライシングを財源として移行債を発行すると明言しています。「カーボンプライシング」とは、炭素に値段をつけ、排出者が脱炭素の行動をとるようにしようという仕

られ、日本のエネルギー安定供給を構築しながら、どのようにして脱炭素を進めていけばよいのかというところがまさに国レベルでも大きく取り上げられ、話し合われています。

「電力エネルギーが向かうべき姿」

エネルギーの安定供給と脱炭素、両者をどういうふうに進めていけばよいのかという問題は非常に重要であり、化石燃料に大きく依存している今のエネルギー構造を、国も問題視しています。エネルギー供給のあり方として、安全性(Safety)を前提として、自給率(Energy Security)、経済効率性(Economic Efficiency)、環境適合(Environment)の三つを同時達成する「S+3E」という観点があります。自給率を安定供給と言い換えれば、「安定供給」「経済効率性」「環境適合」の三つのバランスがとれていなければならぬのですが、ややもすれば、足元で環境適合の声が大きくなりすぎて安定供給が崩れ始めている。皆さまに節電のご迷惑をおかけしているのも、安定供給が少し疎かになっているからではないかという部分も

組みです。ひとつは排出権取引、もうひとつは賦課金とっている炭素税、この二つを採り入れようという議論が大きく進んでいます。

排出権取引は、たとえば「今年、日本は十億トンのCO<sub>2</sub>排出枠しか認めません。だから、CO<sub>2</sub>排出企業はその枠をお金を出して買ってください。」という仕組みです。実際にヨーロッパでは排出権の取引は盛んに行なわれており、排出権が高くなったり安くなったりして、企業行動にもこれが大きな影響を与えています。

炭素税はわかりやすい仕組みで、CO<sub>2</sub>の排出の元(石油、石炭、LNG)に課税するというもので、現在も少し課税されています。

この排出権取引と炭素税の二つを組み合わせてGXの財源にしていこうということが高らかに宣言されています。今後、具体的な導入に向けて大きな議論になっていきますので、皆さまもご注目いただければと思います。

ちなみに、関西電力としても、国の目標をにらみながら、二〇五〇年のゼロカーボン実現に取り組んでいくところですよ。

あり、どのようにすれば安定供給を確保しながら環境適合を図っていくことができるのか、さらには災害に強い電力をつくるためのレジリエンスをどういうふうにしていくのかといったことをしっかり考えていかなければならない時に来ています。国のレベルでもこういったことを問題視しており、GX実行会議などで議論が進められているのです。

そのなかでは、足元の危機を克服するための資源確保、再エネのしっかりとした活用、需給緩和、さらには原子力の再稼働も含めて、この冬を乗り切るだけでなく、国費の流出も防いでいく必要がある、ということも含めて話し合われています。

また、中長期的な観点では、再エネをさらに拡大させていくために、例えば北海道から海底直流線を東京エリアに引くといった送電網の整備、連系線の強化を進めることや、原子力も運転期間を有効に使い、既設の原子力発電を最大限利用できるようにしようといったことが打ち出されています。

再生可能エネルギーについては、日本もさらに注力していくことは間違いありません。しかし送電線がな

〜さいごに〜

今日のお話のまとめです。足元の状況としては、燃料価格の高騰によって電気料金が上昇し、社会の皆さまにご迷惑をおかけしている状況です。

肝心の安定供給については、老朽火力の廃止等による供給力不足により、需給については大変厳しい状況にあります。中長期的な対策としては、電力の安定供給を確保するために、たとえば発電所を建設しやすい世の中にしていくというインセンティブも重要になってくると思います。さらに長い目でみれば、これまで同様、各電源のベストミックスを追求して、カーボンニュートラルを実現できるようなイノベーションに国としてしっかりと取り組んでいく方向が示される必要があります。電気事業においては、大きく以上のような動きの中にあるということをご理解いただければと思います。

(令和四年十二月十六日)

講演抄録文責在記者



食堂よりお知らせ

平素へ会員の皆様方にはいつも大変お世話になり誠に有難うございます。昨今の原料・材料費の高騰を受け、誠に遺憾ではありますが、二月一日から食堂のメニュー価格を一割程度上げさせて頂くことになりました。今後更に内容充実・サービス向上に努めますので何卒宜しくお願い致します。

◎メニュー例（価格は税込）



◆ ランチメニュー ◆

◆ ランチ以外のメニュー ◆

- ◇ 倶楽部ランチ (週替わり料理) ¥2,500
- ◇ 倶楽部ディナー (肉or魚料理) ¥4,800
- ◇ 倶楽部弁当 (和・洋・中) ¥2,500 ¥3,000 ¥3,500
- ◇ 特製幕の内 (ご予算に応じてご用意させて頂きます。) ¥4,000~
- ◇ ご宴会大皿料理 (4名様~) ¥2,500/人~
- ◇ パーティーバイキング (11品~) ¥3,500/人~
- ◇ 飲み放題 (2時間まで) ※日本酒除く ¥2,600

**お詫びと訂正**  
先月号の巻頭言「新年のごあいさつ」の中で、理事長(代表理事)津賀一宏の肩書きにおいて、社名の誤りがございました。お詫び申し上げますとともに訂正いたします。

(誤) パナソニック株式会社

(正) パナソニックホールディングス株式会社

理髪室からのお知らせ

平日：午前10時～午後3時(土曜休み)  
料金：カットのみ 二、〇〇〇円  
(会員) カット+洗髪 二、五〇〇円  
カット+顔剃 二、五〇〇円  
フルコース 三、〇〇〇円  
女性顔剃・美顔マッサージュ付 一、五〇〇円  
※各種趣味のビデオテープもありますので、ご自由にお楽しみ下さい。

◎一階喫茶メニュー  
かねてより会員様より喫茶メニュー充実のお声を頂戴しておりました喫茶メニューを、二月より新たに更新させていただきますので、是非ご利用ください。

●喫茶新メニュー (一部)

きつね(うどん・そば)	¥680
牛丼(味噌汁付き)	¥800
ハヤシライス(サラダ付き)	¥780
ケーキセット(コーヒー付き) (チョコ・レモンチーズ 他)	¥780

◎イベントメニュー開始  
また二月より、三階大食堂にて、期間限定メニューを実施させて頂きます。今話題の食材や地域限定の食材・ドリンクなどを使ったメニューをご提供させて頂く予定です。どうぞ宜しく願い申し上げます。  
(二月：Tポインステーキ)

詳しいメニューは、ホームページをご覧ください。  
URL  
<https://www.chudenki-club.or.jp/menu/>



電寿会総会を開催

令和五年一月十一日(水)当倶楽部三一六号室で総勢六名が集い総会を開催しました。  
総会においては令和四年行事実績および会計報告、令和五年の行事計画および収支計画等について事務局から説明し異議なく承認されました。また、役員については代表幹事は吉川隆俊氏、幹事は妹尾由明氏がそれぞれ就任することが異議なく承認されました。

電寿会では、随時新会員を募集しています。(正式入会前の体験参加大歓迎)

毎月 原則第一水曜日例会

(十二時から十四時頃)

年二回見学会を開催(電社会合同)

会費 一ヶ月一、〇〇〇円

(上期・下期の半年毎)

お気軽にお問い合わせ下さい。

連絡先は総務三宅まで

テナント入居募集中!!

当倶楽部では、電気関係事業、学術と文化、社会の発展に寄与することを目的として、諸団体に西館四階の事務所スペースに入居いただいております。現在一室(約五二㎡)が空室となっており、パッケージエアコンを新調、またインターネット回線も利用可能となっております。

J.R. 地下鉄・私鉄からのアクセスも良く、利便性の高いロケーションにあります。  
会員の皆様、事務所をお探しの団体様にお心あたりがありましたら、是非ご紹介下さい。お待ちしております。



連絡先

倶楽部事務局

Eメール: info-cd@chudenki-club.or.jp

(疋田)まで。

◎絵画部(水彩画)教室

一月度(十八日・水曜日)の画材は、「静物・倶楽部本館二階」でした。

次回は二月一日(水)「静物・花」です。

◎囲碁部 例会(二月十四日)

成績

- 三勝 四段 竹内 建君
二勝 八段 山田 進君
七段 村上 幸夫 君
四段 廣川 強士 君

(次回例会は二月四日(土))

◎将棋部 初指し会(二月七日)

成績

- 三勝 六段 井上 清志 君
二勝 六段 井上 絃 君

(次回例会は二月二十五日(土)指導なし)

◎俳句部

第八百四十五回 いなづま句会

俳誌「かつらぎ」主宰 森田純一郎先生指導
令和四年十二月十七日
兼題 当季雑詠五句

選者吟

着ぶくれてスクランブルをすり抜くる
毎日が納め句座とはなりにけり
着ぶくれて雨の堂島さまよへり
寒の雨溜めて堂島川暗し
朝時雨ロンドンらしくなりにけり

いなづま句抄

- 冬銀河七千尺の露天温泉に 富山 勝幸
○落書もある農具小屋注連飾る 難波 正行
○日に包まれみたる寝心地干蒲団 木下 貴友
○ダンボールなる馬小屋や聖夜劇 広田 祝世
○堂内も湯気また湯気や大根焚 東代 舞
○五箇山の高階泊れば虎落笛 出店智恵呼
○建て付けの悪き老舗や牡丹鍋 奥村 恵子
○はふはふと息吹き食ぶる大根焚 友岡 淑子
○舟着場沈むもありて蘆茂る 前野美枝子
○冬夕焼け葉のなき桐の黒き幹 留岡 寛
○グズズ履く女人の多し年の暮れ 野尻 弘輔

(○印選者選)

◎麻雀部 第二五九回大会(十二月十七日)

成績

- 優勝 高木 二弘 君
二位 濱野正一郎 君
三位 塚本 雄藏 君
四位 野村 和夫 君
五位 (参加者二十名)

・優勝コメント

コロナ禍の再開(一回目)、令和四年最後の麻雀大会が開催された当日の朝、阪急梅田駅のプラットホームで八十才後半の女性が電車を降りる時、手押しの四輪車が電車とプラットホームの間に車部が挟まれ、助けるのをしました。人助け(良い事)をした場合、神様は見ている様に思います。そこで神様が味方して優勝することが出来た様に思います。
毎回、麻雀大会のお世話して下さい。景山委員長、事務局の皆様のご尽力に感謝申し上げます。
ゴルフ好きの皆様は雀友会ゴルフコンペ(年四回)へ是非一度ご参加ください。
(次回大会は二月十八日(土))

◎ゴルフ部 新入部員募集

ゴルフ部では、近畿の北部を中心とした名門ゴルフ場をはじめ、色々なゴルフ場で月一回の例会を開催しています。幅広い年代の部員が楽しくプレーしています。
倶楽部会員の皆様、新入会員の皆様、ゲスト参加も大歓迎いたします。一度ご参加下さい。
又、清交社懇親競技会も六十年以上(二〇二二年十月・二七回大会)という、歴史を重ねています。(部員の紹介は不要です。)
伝統あるゴルフ部にご入会お待ちしております。

募集要項

- ★当倶楽部会員に限ります。
★年会費 入会金 三、〇〇〇円
年会費 六、〇〇〇円(月五〇〇円)
競技費 各自実費(チップ請求)
\*\*お申し込みお問い合わせは、総務グループ三瓶まで

(注)

納め句座(おさめくざ)・・・年末に行われる、座の文学である俳句会のこと(季語)
冬銀河(ふゆぎんが)・・・冬の夜空にかかる天の川のこと(季語)、「天の川」は秋の季語
露天温泉(ろてんゆ)・・・標高二、一〇〇メートルにある露天風呂、白馬鍾温泉のこと
トルにある露天風呂、白馬鍾温泉のこと
聖夜劇(せいやげき)・・・十五・六世紀のヨーロッパで行われた素朴な劇で、クリスマス・イブに行われる(季語)
大根焚(だいこたき)・・・鳴滝を訪れた親鸞上人を村人が大根煮でもてなしたという故事にちなみ、了徳寺など京都の寺院で冬に行われる行事(季語)
虎落笛(ものがりぶえ)・・・「虎落」とは竹を立てて並べて作った柵や竹垣のことで、厳寒の夜空を風がヒューヒューと音を立てて渡ること(季語)

◎撞球部 例会(二月七日)

成績

- 優勝 佐々木 孝 君
二位 高坂 定男 君
三位 馬場 秀行 君
四位 大竹 一夫 君
五位 上田 豊治 君
(参加者 十八名)

・優勝コメント

「出会った後、タッチしたりキスしたりと、いい感じだったのに、おさわりしてしまい終わった。」
のっけから何を言うてるんやとお叱りを受けそうですが、真面目な話をしていきます。
これすべてピリヤード用語。手球的球と出会わせて当てる技を「出会い」、球同士がくつづくことを「タッチ」、球同士の衝突を「キス」、キュー以外の部分が球に触れてしまう反則を「おさわり」といいます。
これ以外にも口に出して言えないような用語もある楽しい四ツ球競技ですが、実は恋愛と同様に思いどおりにならない難しく奥が深い競技です。
今回、運よく恋が成就(初優勝)しましたが、また失恋の繰り返しでしょう。
球は無限。これからは新たな彼女(球)との出会いに胸ときめかせたいと思います。
(次回例会は二月四日(土))

◎撞球部令和四年度年間チャンピオンシップ

- 優勝 石塚 正和 君
準優勝 富山 勝幸 君

他倶楽部案内

清交社の午さん講演会のご案内

会場：ANAクラウンプラザホテル大阪 五階ガーデンルーム
時間：十一月三十分～十三時三十分

二月七日(火)

講題『ウクライナ危機後の世界と日本』(公財)ひよっこ震災記念

21世紀研究機構

理事 五百旗頭 真 氏

二月十四日(火)

講題『ウサギの文化誌で憂き晴らし』

上方文化評論家 福井 栄一 氏

二月二十一日(火)

講題『未定』

二月二十八日(火)

講題『がんの放射線治療 「最新事情」』

京都大学大学院 医学研究科 放射線腫瘍学・画像応用治療学 教授 溝脇 尚志 氏

※状況により中止になる場合があります。

◆出席ご希望の方は、当倶楽部事務局

(更倉)に二日前までにお申し込み下さい。

◆会費／三、〇〇〇円(昼食代・消費税込後日精算)

前日の午後五時以降は、キャンセル料が発生します。

☆ネクタイ着用